

# UA 神奈川学習センター

1999年1月1日  
第2巻第1号(通巻5号)

ふ ゆ だ より

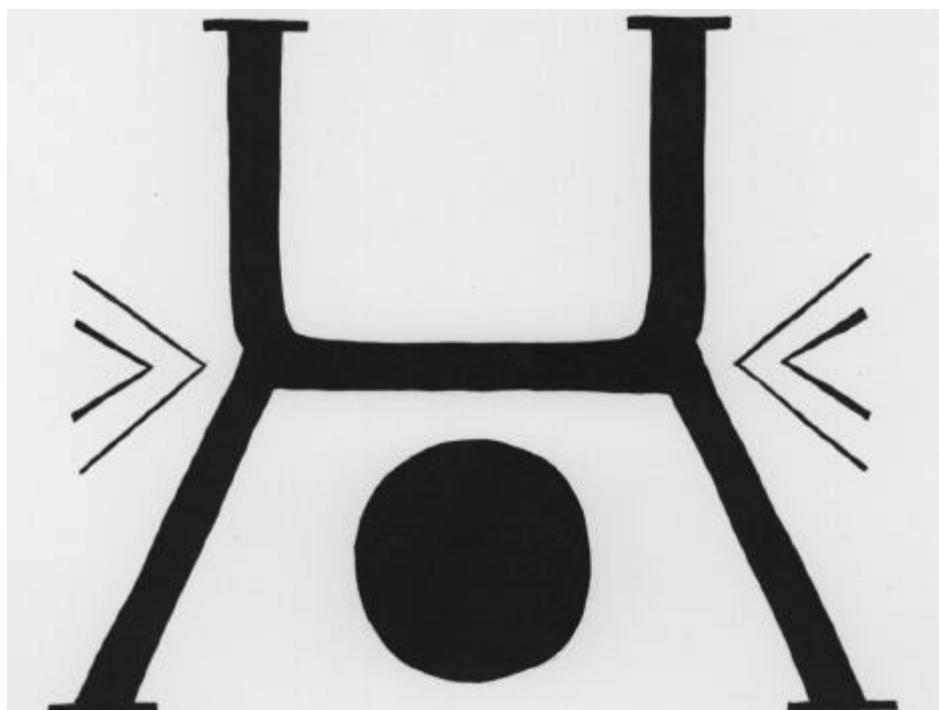
## ハイライト

1 今年もよろしく！

2 初詣で

3 学習センター研修旅行

4 学生団体の紹介



[イラスト:石山翼]

放送大学神奈川学習センター  
〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1  
TEL:045-710-1910  
FAX:045-710-1914

UA のみんな! ガンバレ  
チャ! チャ!  
今年もよろしく  
チャ! チャ!

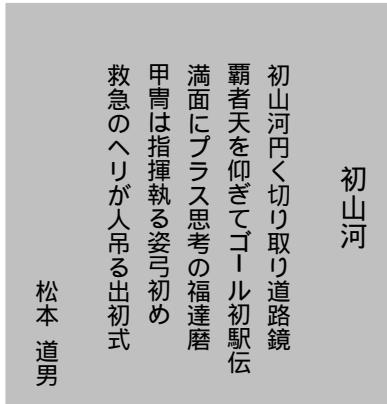
## 初詣で

森木 やす江

暖かい元旦を迎え、歩き初めをする。トレーナー、スニーカーに着替えて、主人と出かける。風は少し冷たいが、太陽は春のように柔らかな日差しである。日大の構内を抜け、農家のネギや小松菜の整然と植えられた畑の土の道、枯れ草の感触や土の柔らかさが足の裏に心地よく伝わる。正月も歩く高校生、中年夫婦等の人々とあいさつを交わす。「この気温に誘われた人がいるのね」と話し合いながら、いつもと違う谷戸の道、竹やぶのそば、ブドウ畠の見える道へと歩を進める。家から小一時間の近くに、このような散歩道があったのに驚く。冷たい風も、今はさわやかさを感じさせる。一面に粟の植えられた畠にも、日中の為か、小鳥の姿が見られない。

土の道も簡易舗装に変わると、集落に出る。大きい門構えに、竹やぶの竹で作ったであろう手製の大きい門松が飾られ、表札も同姓の数軒が続く。屋敷内のトラクターなどの農機具も松飾りが付けられ、正月気分があふれている。立ち止まり眺めていると、突然に家人が出て来て訝しげに見られたので、あわてて会釈して歩き出す。しばらくして、切り通しの上に灌木の林の続く道に出る。どこに通じている道か、心配になってくる。切り通しの土手をくり貫いた小さな「山王神社参拝者用駐車場」の看板を見つけ、自動車道に通じているなど安心する。灌木の林に上る幅九十センチ程の石段があり、「山王神社」とだったので登ると、小さなお稲荷さんと、賽銭箱、鈴それに格子戸でなく真新しいガラス戸の嵌ったお堂があった。賽銭箱のおかれているタタキには、二十足程の履物があるが中からは人声が聞こえない。鈴を鳴らし賽銭を入れてお参りする。思わずでの初詣で、今年の安泰をお願いする。遠い子供のころの初詣での杉木立の冷たさ、大きな鏡餅、しめなわ、正月の晴れ着など、懐かしさが頭をかすめる。お堂の静けさは氏子の正月神事が行われているのだろう想像しつつ階段を下る。次の年も、初詣でをここでしようとそんな気持ちにさせられる。歩を進めいくと、見慣れた引地川沿いの道に出る。

今日のような、心穏やかな一年でありますように、と思いつつ帰途につく。



## ゆめ国体に参加して

島田 貞子

かながわ「ゆめ国体」開会式のアトラクションに参加しました。国体に参加するなど、思いもよらないことでしたが、健康体操のグループ活動のおかげで、その一員として参加することができました。

私たちのグループは、「海の讃歌」と題する演技を行いました。神奈川の海、湘南の海をイメージしたものでした。一グループ100人の8グループ構成で、グランドいっぱいを青い海に変えるという演技でした。

さざ波、寄せては返すおだやかな湘南の海、うねりや波濤の躍動する雄大な海。そこに群れる生物、そして親潮、黒潮の入り交じる相模湾の潮流。照明効果も生かされて、幻想的に演出されました。

単純な演技であっても、全体の動きにするには、お互いの呼吸を合わせるための練習は欠かせません。寒い冬の練習から、真夏の日射病になりながらの練習をへて、一年半の間、ワイワイ、ガヤガヤ、楽しい訓練を繰り返しました。

また、ゆめ大会(全国身体障害者スポーツ大会)閉会式にも参加し、全国の選手の皆さんと握手し拍手し、大きな感動のうちに見送りました。

スポーツは今や、私たちにとって、身近で大切な存在になってきました。健康な身体を維持し、さらに鍛える人、競技スポーツを楽しむ人、世界中の人々に親しまれるスポーツの魅力は、なんといっても身体を動かし、汗を流す爽快感、仲間と肩を組む喜びでしょう。友情の輪もグループを越え、さらに、大きく広がりました。

子供から高齢者までそれぞれ、自己表現できたゆめ国体でした。来年は、熊本県でおこなわれることになっています。

## 特養ってどんなとこ?

寺崎 茂

私の気のせいであろうか、「特養 - 特別養護老人ホーム - 」というものに世間の関心が強まっているようである。私はここへ入ってまだ2~3ヶ月であるが、「どんな様子か、知らせてほしい」という要望を受けた。

先ず言えることは、今高齢者が急速に増えて、介護を要する場合には家庭の力では及ばない場合が多いということだ。特養ホームへの入所希望者は増える一方である。

私は、現在83才。脳梗塞の後遺症で、左側半身麻痺で使用不能である。勿論贅沢を言えばきりがない。当然不自由なこともある。けれども、特養へ入れてもらって、三度の食事、入浴、着替えなどのサービスを受け、比較的、規則的な生活を送ることができる状態になっている。のために必要な介護のサービスは、何時でも依頼すれば、遅滞なく行ってくれ、この点では感謝している。

特養生活の要点をまとめると、およそ次のようである。居室は、4人部屋で、各人のプライバシーを守るにはやはり困難を感じる。私の希望としては、二人くらいがよいと思う。入浴は、週に2回で、これは十分と思う。洗濯は、入浴の都度、全部着替えができるので十分。食事は、給食で出される分だけでは、栄養不足と思われるもので、自分で適当に補助食を添えている。趣味については、囲碁、習字、絵画、写真、園芸などであるが、外へ出て自然に親しめないのが、最大の不自由。

以上、総合的に採点すると、60~70点くらいになると思われる。なお、施設名は発表しないことにする。また、できれば質問を寄せただいて、それに答えることを行いたい。読む力、書く力、考える力の全てが弱くなり、役に立たなくなってしまいそう。努力は、続けていきたいと思っている。

編集部:寺崎さんへの質問を募ります。任意の用紙に書いて、学習センター窓口までお寄せください。



## 特集: 学習センター研修旅行で、特に得られたこと、有意義であったことについて

神奈川学習センター恒例の研修旅行が、6月7日(日)に行われました。新宿グローブ座にて、ロイヤル・シェイクスピア劇団公演のシェイクスピア原作『ロミオとジュリエット』を観劇しました。事前に、藤井洋子先生と柴田恵理子先生に鑑賞のための解説と講義を行っていただきました。ここに紹介しますのは、参加した学生方の感想文の一部です。(掲載が遅れたことをお詫び申し上げます。編集部)

### 感動の余韻

本場イギリスの素晴らしい演劇を、日本に居ながら堪能する機会に恵まれ、本当にうれしく思いました。数日間、感動の余韻に浸っていました。流動する時代の中で、感動する心を忘れておりました。それほど、この演劇が物語性に富んでおり、その物語中に潜む真実性、人間の内面をリアルに見せてくれるものがあるからだと思いました。この劇がどのようにして、そういう緊張や感動をつくり出すのか。緊張や感動を呼び起こすための仕掛け、組立てを私なりに考察したいとそんな気持ちで拝見致しました。

劇を成し、それを構成するための約束ごとがあるのだろうか。いやそれがあるからこそ、その法則があるからこそ、この伝統は今日まで動かすべからざるものとして、生き続いているのであろうと思いました。それらについて、ほんのすこしだけ糸口が見えたような気がいたしました。 (高橋 敏子)

### あまりにも若すぎて

参加した動機は、一ヵ月半まえにイタリアに出かけた折に、ヴェローナを訪れる機会があったからである。またこのとき、ジュリエットの家といわれているところで、若い人達の喊声と熱氣があふれ、そしてその家の外壁に書かれたたくさんの落書きのなんとかいだったことか。しばし見とれたことが、まだ余韻としてあった。このことも、参加理由のひとつである。

今回の観劇では幸いにも事前にセリフの解説や、劇の見どころ、筋立てや当時の因習などについてのお話があり、たいへん助かった。特に印象に残ったのは、ロレンズ神父の言葉である。「早すぎるのは、遅すぎると同じように失敗する」であった。しかし、そんなことはすこしも耳に入らず、一途に突き進んでいくロミオとジュリエット。その先にどのような悲劇が待ち受けているとも。若い人達は、どのような行動に共感を覚えるのだろう。現地で見た窓の下、庭の片隅にあったあまりにも若すぎる少女のブロンズ像が、14歳でしかなかったジュリエットだと知ることができて、ようやく納得できた次第である。 (大出 鍋藏)

### 情熱的で官能的

二十年前から、いつかシェイクスピア劇を観たいと思っていました。今回、

研修旅行という形で実現し、感激でした。バスのなかでの藤井先生によるセリフの解説と東京第二学習センターでの柴田先生の講義は、わたしの頭に「ロミオとジュリエット」のイメージとシェイクスピアの英語を焼き付けてくれました。直前に説明を聞くことで、比喩表現の多い難解なシェイクスピア英語が劇中の俳優のセリフと重なり、さまざまな意味を明らかにしてくれ、また興味をかき立ててくれました。貴族のロマンティックな悲劇というよりも情熱的で元気なロミオとジュリエット劇という印象でした。内容も官能的でスピーディな進行で、叫ぶような発声に情熱を感じました。ベッドシーンでのヌードにも、びっくり。あっという間の3時間でした。百聞は一見にしかず。すばらしい研修でした。

(植田 美智子)

### 音楽としての英語

ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの鑑賞は、前回の「ヘンリー世」に続き2度目でした。いずれも素晴らしい演技に感激しました。今回は、よく知られている「ロメオとジュリエット」でしたが、公演前の講義で、藤井洋子先生や柴田恵理子先生からの分かりやすい説明を受けたことで、いつもの「ロメオとジュリエット」より何倍も楽しむことが出来ました。特に、有名なせりふや、そのせりふが登場する場面の説明をして頂いたことは、その後の鑑賞に十二分に役立ったことは言うまでもありません。

前回もそうでしたが、今回もイヤホーンガイドを使いませんでした。それは、「英語」が聞き取れるからというのではなく(実際には聞き取れる部分の方が少ない)、ほとんど日常では耳にすることがない美しい「英語」をそのまま「音楽」として聴くことに専念しようと思ったからです。私の場合、イヤホーンガイドを使用すると、日本語のせりふのみを追ってしまい、せっかくの「英語」を聞き漏らすことが明らかだったからです。両方を聴きながら楽しむことなど、まだまだ私にはとうてい無理なようです。

そのことが功を奏したのでしょうか、公演前に説明を受けた場面のせりふが聞こえてきたではありませんか!思わず、嬉しくて声が出そうになりました。その後も、色々なせりふが耳に飛び込んでいました。終わったときには、ま

るで、ストーリー全部の「英語」が聞き取れたような錯覚に陥ってしまいました。それだけに充実した気分を味わうことが出来ました。

余談ですが、前回の「ヘンリー世」については、全く知らなかったので、本を探して図書館を回りました。とりあえず借りた本を読み、あらすじを把握して公演にのぞみました。その時は、せりふは余りわかりませんでしたが、あらすじを多少なりとも把握していた分、十分に楽しむことが出来ました。役者さんの美しさと演技の素晴らしさ、そして音楽としての「英語」の美しさに魅了されたひとときでした。

前回、今回を通して感じたことは、あらすじなど内容を知らないものは、事前に調べるなどして内容を把握しておいたり、知っているものであっても、更に自分で調べたり、先生からより深い説明を受けたりするなど、つまり、事前に豊富な知識を得ることが出来たかどうかで、明らかに演目の理解度が違うこと、そして何より、より大きな満足感や充実感が味わえることを改めて実感しました。「英語」がうまく聞き取れないながらも、自分なりの楽しみ方が出来る方法を発見したように思います。

(遠藤 嗣子)



### おまえに九つの命があるなら

英語で演じられるシェイクスピアを現実の劇場で觀ることは、私にとって、初めての経験でした。観劇まえに配布された資料に基づいて、バスのなかと、東京第二学習センターで藤井先生と柴田先生から「ロミオとジュリエット」に出てくる有名なセリフについて講義を受け、このため余裕を持って、自分なりの観劇を楽しむことができました。また、今回翻訳を読んでから参加したのですが、そのときわからなかったことも理解できました。

たとえば、第三幕で、ロミオの友人のマキューシオがティボルトに「猫の親分 おまえに九つの命があるな

ら・・・」と言う場面がありますが、なぜこのように言うのか。このことは柴田先生の説明を聞いて、はじめて納得がいきました。ほかにも、セリフをただ読んだだけではわからなかつたことがありました。そのような読み過ごしに気づかされた次第です。

今回の「ロミオとジュリエット」では、時代設定が第一次大戦後にずらされました。観劇のあとで、観客と演出者、それにロミオ役のレイフェロン、ジュリエット役のソーウェイクが加わって、通訳の先生を交えて質疑応答が行われ、このように時代設定がずらされた理由など、演出者の意図が十分理解できる工夫が行われており、なるほどと思うことがしばしばでした。今回初めての研修旅行参加でしたが、私にとって大変良い思い出となりました。

(石井 恒雄)

### 韻と比喩

今回の研修旅行では、多大な収穫を得ることができた。その最大のものは、シェイクスピアのセリフが韻を踏み、比喩で成り立っていることの発見であった。この韻と比喩の掛け合いは、日本古代の歌垣(カガヒ)で、求婚問答を交わす風習にも比すべきものであろう。万葉初期の相聞歌には、初步的な対句・対偶・比喩が使われ、相手の詞句を巧みにとらえて、自分の歌に織り込み、機知的に歌い継ぐものがある。この掛け合いは、ごく最近まで対島など各地で行われていたという。中国雲南では、現在でも同じ様な風習が残っている所があると聞く。西欧でも、ギリシアの遠い昔からシェイクスピアの時代を経て現代に至るまで、韻を踏み比喩を盛り込む表現は磨かれ、発達して来たに違いない。これが古今東西、人類共通の文化ということを知り、一層興味深く感じた。英語のこんなに楽しい聴き方ができるなら、苦手意識を捨てて再挑戦してみたいと思った。

次に今回の劇では、場所と登場人物等の設定に新しい試みがなされており、これは成功していたと思われる。時代は1910年頃ということだが、現代でも、この北イタリアの中都市城外の農村で、いかにもありそうな雰囲気が感じられた。同一テキストで戯曲を演じても、演出が異なると、また訴えかけるものが違ってくることがよく分った。とにかく、学ぶことの多い、楽しい観劇となつた。末筆ながら、お誘い下さった浜口允子先生、事前にレクチャーして下さった藤井洋子先生と柴田恵理子先生に心から御礼申し上げたい。

(田嶋 美喜)

## 学生団体の行事予定

### 人間学研究会

人間学研究会行事予定(99/1~99/3)

#### 【例会予定】

- 1/10(日) 藏書や資料をどのように管理しているか
- 2/7(日) 卒業研究発表
- 3/6(土)~7(日) 宿泊研修(幕張本校)

#### 【歩きましょう予定】

- 1/1(祝) 元旦都心ウォーク(上野公園~20km)
- 1/9(土) 鎌倉初詣ウォーク(藤沢 大仏切通し 八幡宮)
- 1/15(祝) 「奥の細道を歩く」スタート(日本橋~千住新橋)

「奥の細道を歩く」では、6月までに日光到達を目指します。その後数年かけて、芭蕉が歩いたコースを辿ります。

連絡先 大出 鍋蔵(0468-41-7937)

### 神奈川放友会

神奈川放友会からのお知らせ

神奈川放友会は会員相互の親睦を図り、学習を援助する為に

下記の活動を行っています。

- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表
- ・研修旅行(大学本部セミナーハウスで図書館利用の習得等)
- ・社会探訪(博物館、動植物園、美術館及び名所史跡等の見学)
- ・機関誌発行(不定期)

通信指導も終わり、認定試験に備えて学習に励んでいる事と思います。10月新入学の皆様初めての通信指導の体验いかがでしたか。

毎回お知らせしていますが、放友会では会員の学習履歴データベースを充実させ、着々と会員相互の情報交換を進めています。

この機会に入会しませんか、連絡をお待ちしています。

- ・行事予定(1月~3月)  
2月21日(日) 例会・研究発表(大岡地区センター)

- 3月20日(土) 例会(新年度計画、情報交換)

問い合わせ、入会申込 連絡先

〒235-0023 横浜市磯子区森1-15-1-810

吉田昭二 Tel/Fax 045-752-2783

### 神奈川放友会の活動報告:研修旅行

6月13日午前9時30分、JR横浜駅横須賀線10番ホーム最後尾に集合。いよいよ研修旅行の始まりである。

当初11名の参加予定が7名になり、1時間遅れで横浜を出発した。私は、市川で育ったので、横須賀線で通過する、錦糸町、小岩、津田沼と昔を思いだし、楽しい車窓であった。ローカル線に乘換え、幕張駅につき、国道14号線を横断し、放送大学学園へ入る。ここは、かつて谷津遊園と同様に、よしづ張りの海水浴場であった。思えば懐かしいが、この海岸は遠浅なので、潮干狩が出来たのだ。

千葉学習センター、および附属図書館を見学し、放送大学セミナー・ハウスに入り、この宿泊施設を利用することになる。個室で、ベット、机、バス・トイレ、テレビなど、新しい雰囲気の部屋であった。実費千百円で一泊、よし勉強するぞ、と身が引き締まる。

一階の研修室で、講義があった。我がメンバーには「役者」がいる。旧海軍、東大の造船設計、そして趣味で数学をやっている学者である。この数学者の「お遊び」講義で、2時間を過ごした。その後、一階の補食室での夕食、これが楽しかった。材料の買い出し、メンバー女性の指揮により、米を炊き、スキヤキを作り、ビールと酒を呑んだ。よくぞ腹にこれほど入る、と思うほどに、大食い、大呑みして、また皆学習の話におよび、意見をぶつけ合い、喧し、疲れ果たし、各自個室に入る。

次の朝、昨夜の残り御飯に、アサリの味噌汁、いくら、梅干、ノリの朝食を摂る。この日は小雨の降る中、JR成田線の安食駅より、バス5分、「千葉県立房総のむら」を見学した。肌寒さの中でのランチ。朝食の残りの、梅干入り、ノリ付おにぎりを食べ、帰途につく。JR日暮里駅で、横浜方面へ帰る人と、新宿方面へ帰る人と別れ解散した。最後に、この研修旅行をまとめた、幹事さんありがとうございました。

(長谷川 作蔵)

### 神奈川学習センターだより編集部

発行: 浜口允子

編集: 五十嵐、遠藤、星、  
加藤、松本、皆川、吉田、  
杉浦、坂井

Internetでは、セタ-だよりのバッケン  
バ-も見ることができます。

<http://www.dango.ne.jp/ua-kanag/>

Eメールの宛て先は、

[social@u-air.ac.jp](mailto:social@u-air.ac.jp)

次号は、卒業と入学について特集を組みたいと思います。原稿をお寄せください。今号のイラストは、石山さんと早瀬川さんが描いてくださいました。